

映画のあらすじ

「タネは誰のもの」(日本) 65分

2018年4月、種子法廃止。そして2020年12月、改正種苗法成立。急速なグローバル化の中であらためて問われるタネの権利とは。

2020年6月に国会成立が見送られ、継続審議となった種苗法改定の動きに対して賛否が渦巻く中、自家採種・自家増殖している農家と種苗育成農家の双方の声を伝えるため、北海道から沖縄まで様々な農業の現場を取材。政府が拙速に改定を成立させようとしている中、種苗法改定(案)が日本の農業を深刻な危機に陥れる可能性を、専門家の分析も含め農業の現場から探った。



「それでも種をまく」 24分 「それでも種をまく2019」 22分 (日本)



2011年3月11日。福島第一原発事故は福島や周辺の有機農家を苦境に追い込んだ。その地に留まり農業を続けた農民。新しい地へ移住し、その知識と技術を若い人たちに伝える農民。共同で測定器を購入し、放射能を測る農民。それから8年余り経ち、放射能汚染が残る高線量地域への帰還も始まっている今、農民たちのその後を追う。原発事故直後を生きる有機農業者たちの声(2011年11月)と、原発事故から8年、有機農家のその後を追う(2019年)の2編を上映。

「百姓の百の声」(日本) 130分



食べている限り、誰の隣にも「農」はある。なのにどうして、これほど「農」の世界は私たちから遠いのか。柴田昌平監督が、食の原点である農と向き合った。全国の百姓たちの知恵・工夫・人生を美しい映像と丁寧なインタビューで紡ぎ出す。田んぼで農家の人たちが何と格闘しているのか。ビニールハウスの中で何を考えているのか。多くの漠然が「風景」としか見ていない営みのそのコアな姿が、鮮やかに浮かび上がる。



今後経済が下向き食糧輸入に頼れなくなると予想される日本で、いま必要とされる力は、レジリエンス=復元力。百姓たちには本来これが備わっている。映画に登場する百姓たちは小手先では解決しないさまざまな矛盾を独自の工夫で克服していく。

「百姓の百ぷらす2」

(県内百姓のトーク)

吉村 智和さん

あわら市で、「豊かな大地を未来へ」をコンセプトに、とみつ金時(さつま芋)、とみつかぼちゃ、大根などを栽培。(株)フィールドワークス代表取締役。平成27年「ふくい人の力」大賞受賞。平成29年には中日農業賞、農林水産大臣賞、を受賞。



志野 佑介さん

福井市鮎川町で、ヒトモノコトを繋ぐ商店「しの屋」を経営。また越前海岸の豊かな資源を生かし「志野製塩所」では塩を生産し、海藻や貝類などの海土業と、稲作、畑作、養鶏などの農業を営み、百笑な日々を送っている。

【後援】福井新聞社、福井県池田町教育委員会、(財)池田町農業公社

【私たちが応援します!】NPO 法人環境Uフレンズ、環境パートナー池田、農事組合法人ファームハウスコムニタ、あゆみの会、池田町米穀協同屋(株)、池田町有機米生産研究会、(一財)池田屋 DMO 準備室、福井県有機農業推進ネットワーク、おもちの母屋、(同)池田ファーマーズ、(財)池田屋・冠荘、まちおこし21、101匠の会、(同)長尾農園、長尾と珈琲、阿部伸治写真事務所、農ある田家会議、沢崎豆腐店、おけら牧場山崎一之・洋子、歴博茶房ときめぐるカフェ、志野製塩所、(株)フィールドワークス、(一社)うみのいえ、(株)クロスアート、(同)はたをらく、徳太夫・そば処水車、zaccabar ののありか、(有)市川鉄工、(株)ササキ工業、百姓の館、萌叡塾、ロハス越前、(株)田んぼの天使、COLO、コメコロ、いけだ薪の会、ラピュタ創造研究所、木工房竹内、ホーリーバジルの結舎、小豆書房、cafe ココラカラ、まんまるファーム、ツリーピクニックアドベンチャーいけだ、こってこていけだ、あそびハウス、おもちゃハウス、NPO 法人秀明自然農法ネットワーク、ファーム広瀬、よしむら農園、©いけだレコード、池田石油(同)、藤本石油、たけふ福祉工場、湯本味噌(株)、(株)木もくレンジャーズ、KHD、(株)未来工房、(株)DANNE、wacca、LAMP、ハツ杉千年の森、福井ゲストハウス SAMMIE'S、クマゴローカフェ、溝口ファーム、梅田公認会計士事務所、ライダー&ゲストハウスベコ亭、肉家「にくすけ」、あそびばプロジェクト、(株)ヒヤッカ、Simy (順不同)

タイムテーブル

10:00~	●●●	タネは誰のもの
11:15~	●●●	それでも種をまく
12:00~	●●●	お昼休み
13:00~	●●●	百姓の百「ぷらす2」トーク
14:10~	●●●	百姓の百の声
~16:20	●●●	上映終了(予定)